
ちょんまげを武器に使えないか

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちゃんまげを武器に使えないか

【Z-ONE】

Z4356E

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

侍が、刀を失った時の新しい武器を、わりと真剣に考える話。

谷津^{やつ}という貧相な侍がいた。

彼は惱んでいた。

この間、彼が酔つて刀を折つて、チンピラと喧嘩になつたとき。剣に自信はある彼だが、腕つ節だとからつてしまつた。軽くチンピラに殴り倒されてしまった。

武士の威儀が台無し。悔しかつた彼は、他に戦える方法を考えていた。

ワラジを飛ばしたらどうだ。

いや、駄目だ。これは妻の鳴聴^{おきく}が買ったものだ。履き始めて三年。ボロボロで使い物にならない。だけど、捨てられると号泣する女のことだ。今度は不縁（離婚）を言い渡される。

念願の嫁を離したくない。谷津は頭を切り替えた。

じゃあ、着物を投げつけたらどうだ。いや、駄目だ。これは、いつも鳴聴が朝までかけて縫つてるものだ。

それを投げたら、鳴聴はなんて言つだらうか？

いや、何か言う前に自害するだらう。

念願の嫁を死なせたくない。谷津は頭を切り替えた。

許しを請い、油断させたところを闇討ちしようか。

いや、駄目だ。鳴聴の親は位の高い人。おまけに、誠実な谷津を信じて、娘をやつたといつ。

不届きな真似をしたら、下手すると晒し首にされる。

さりに鳴聴は絶望して、後を追つてくるかもしれない。
念願の嫁と心中したくない。谷津は頭を切り替えた。

谷津はちょんまげが気になった。

これ、生えてくるし、いらないのでは。
いつぞや寝てる時に、ちょんまげが鳴聴の鼻に当たったことがある。

不快だと、鳴聴は寝惚けた彼に小刀を向けて、幸い布団が裂かれ
て済んだが、以来布団は少し放している。

これは重荷だ。間違いない。

悩みの無くなつた谷津は、ウキウキしながら眠りについた。

ある日の晩、刀を椅子代わりに飲んでたら折れて、谷津はため息
混じりに刃を懷にしまつた。

帰り、チンピラに絡まれ殴られたので、何くそと折れた刀でちょ
んまげを切ろうとした。

折れた刀がぐつさり刺さる。チンピラが手を添えたのだ。

予想外の刺さり具合と血飛沫で相手は逃げたが、谷津は死んだ。
そこに妻の鳴聴が、買い物途中で通りかかった。見たら旦那がお
陀仏してゐる。

鳴聴は、変わり果てた姿に驚き、涙した。するとその横から、老
人がやつてきた。

「これは立派なちょんまげじゃのう」

何て、馴れ馴れしく触るもんだから、鳴聴の怒りに火がついて、
老人をちょんまげで叩き殺したとさ。

(後書き)

千文字以内で済ませるシンプルシリーズ開始。
自分の文を簡潔にするための、鍛錬プログラム。初めてだけに意味
不明。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4356e/>

ちょんまげを武器に使えないか

2011年1月27日14時05分発行